

2023年
新作

おうみ
狂言
鑑
2023

琵琶姫
びわひめ
作:小佐田定雄 演出:茂山童司
富士山と淡路島が
琵琶湖を巡って恋のバトル!
選ばれるのは果たしてどちら? 伝承から生まれた新作狂言!

チケット発売日
11/12(土)

全会場にて
ご当地名物の販売あります!
各公演開催地エリアのあの商品、この品、
滋賀の銘品をお土産にどうぞ。

A 2023年 **1/21(土)** 14:00開演 (13:15開場) **全席自由**
古典 文荷/墨塗
新作 琵琶姫
草津市立 草津クリアホール
草津市野路6丁目15-11 ☎077-561-6100
URL <https://kusatsu-art.center>

B 2023年 **1/29(日)** 14:00開演 (13:15開場) **全席指定**
古典 清水/長光
新作 琵琶姫
日野町町民会館 わたむきホール虹
蒲生郡日野町松尾1661 ☎0748-53-3233
URL <https://www.rmc.ne.jp/watamukihall/>

C 2023年 **2/19(日)** 14:00開演 (13:15開場) **全席指定**
古典 瓜盗人/惣八
新作 琵琶姫
愛荘町立 ハーティーセンター秦荘
愛知郡愛荘町安孫子822 ☎0749-37-4110
URL <https://www.heartycenter.jp>

D 2023年 **3/26(日)** 14:00開演 (13:15開場) **全席指定**
古典 磁石/梟
新作 琵琶姫
滋賀県立 芸術劇場びわ湖ホール中ホール
大津市打出浜15-1 ☎077-523-7133
URL <https://www.biwako-hall.or.jp>



入場料(税込) 一般 2,500円 25歳未満 1,000円
当日券500円増 ※未就学児入場不可

新作狂言「琵琶姫」作者 小佐田定雄氏をお迎えしてのアフタートークを開催!
「小佐田定雄×茂山千之丞(童司)」
日時 2023年1月21日(土)草津公演終演後 ホールにて
対象 「おうみ狂言2023」いずれかの公演チケット購入者
料金 無料

チケットお求め先
全公演取扱い びわ湖ホールチケットセンター(現金・窓口販売のみ)
Aのみ取扱い 草津アートセンター(草津クリアホール内)
イープラス(e+) 草津市勤労互助会
ローソンチケット Lコード:55820 <https://l-tike.com>

Bのみ取扱い わたむきホール虹 東近江地域勤労者互助会
(一財)甲賀湖南中小企業福利サービスセンター
ローソンチケット Lコード:54682 <https://l-tike.com>
Cのみ取扱い ハーティーセンター秦荘 愛知川公民館
るーぶる愛知川(愛知川駅) みずほ文化センター
ローソンチケット Lコード:54695 <https://l-tike.com>
Dのみ取扱い ローソンチケット Lコード:54763 <https://l-tike.com>

おうみ狂言図鑑とは？

2011年から茂山千五郎家の協力を得て、滋賀県を題材にした新作狂言を制作し、現在までに11の新作狂言が生まれています。これらの作品を「おうみ狂言図鑑」としてコレクションし、滋賀県だけではなく全国でも広く上演され、狂言の「笑い」と「近江」の魅力を発信し、みなさんに親しまれていくことを目指します。

2023年
新作

びわひめ 琵琶姫

作：小佐田定雄
演出：茂山 童司

近江の国に琵琶という美しい姫君が居るといふ噂を聞いた東国の富士山と西国の淡路島が姫と会うためにやって来ます。体育会系の富士と文化系の淡路はそれぞれの魅力をアピールして気に入られようと競い合うのですが…。

姫の心はどちらに傾くのか、傾かないのか…？

出演：茂山千五郎、茂山 茂、茂山千之丞、島田洋海

小佐田定雄(おさだ・さだお)

落語作家。1952年、大阪市生まれ。77年に桂枝雀に新作落語『幽霊の辻』を書いたのを手始めに、落語の新作や改作、減っていた噺の復活などを手がけ、作った新作落語の数は260席を超えた。近年は落語だけでなく、狂言、文楽、歌舞伎の台本にも執筆。著書に「5分で落語のよみかきせ」三部作（PHP研究所）、「落語大阪弁講座」（平凡社）、「枝雀らくごの舞台裏」、「米朝らくごの舞台裏」、「土方らくごの舞台裏」、「新作らくごの舞台裏」（ちくま新書）など。2021年「松尾芸能賞優秀賞」受賞。



茂山 童司(しげやま・どうじ)

茂山千之丞。1986年初舞台。2018年三世千之丞を襲名。語学に堪能で国内外でバイリンガル狂言公演を行う。作・演出を手がける『新作』純狂言集『マリコウジ』、『ヒャクマンベン』を主宰。狂言以外にも最近では『三代目、りっちゃん』、『ゴドーを待ちながら』に出演。2019年第37回京都府文化賞奨励賞受賞。



おうみ狂言図鑑2023 古典作品あらすじ

1月21日(土) 草津市立 草津クリアホール

文荷(ふみにない)

太郎冠者と次郎冠者は主人からことづかった恋文を届けるために出かけます。二人は恋文をもつ仕事を相手に押し付け合いますがやむなく文に竹を通して二人で担ぐことにしました。しかしなぜか文が重い。だんだん重くなる文が気になり読んでみるとそこには「恋しく〜」などと恋の言葉が綴っており…能「恋重荷」を意識した作品で、荷を竹で担う型は「恋重荷」の古い演出にある重荷を担う型に通じる。



墨塗(すみぬり)

大名が国へ帰ることになり、在京中に馴染んだ女のもとへ暇乞いに行きます。女は別れを惜しみ泣きますがその涙は実は水。そのことに気づいた太郎冠者がとった行動とは…



1月29日(日) 日野町町民会館 わたむきホール虹

清水(しみず)

主人から茶の湯で使う水を野中の清水へ汲みに行くように命じられた太郎冠者は行きたくないのに鬼に襲われたふりをして帰って来ます。主人は太郎冠者の置いてきてしまった秘蔵の手桶が惜しく、自ら清水へ行くと言い出したので太郎冠者は先回りし鬼の面をかぶって主人を脅しますが…



長光(ながみつ)

男が訴訟の用件も無事に済み、故郷への土産を買いに市場へ出かけます。賑やかな市を見物して歩いていると、馴れ馴れしく髭の男が近づいてきます。そればかりか手にした太刀を盗もうとする始末。怒った男が人を呼ぶと、髭の男も同じく人を呼びます。駆けつけた目代に男が事情を話せば、髭の男も盗み聞きして自分の物だと強く言い張ります。しかし太刀についての様々な質問に答えるうちに…



2月19日(日) 愛荘町立 ハーティーセンター秦荘

瓜盗人(うりぬすびと)

畑主が自分の瓜畑が人に荒らされているのに腹が立ち、かかしを作り垣根を結っておきます。その夜瓜を盗みにやってきた盗人は、かかしにぶつかり畑主と思って平伏しますが、かかしと分かって腹を立て壊して逃げます。翌日見回りに来た畑主は今度は自分がかかしになりすまし盗人を待ちます。畑主をかかしと思込んだ盗人は…



惣八(そうはち)

有徳人(お金持ち)が僧侶と料理人を新たに雇おうと募集の高札を出します。やってきたのが出家したばかりの元料理人と、料理人になったばかり元僧侶・惣八。しかし互いに不慣れで言いつけられた用事ができそうになく…



3月26日(日) 滋賀県立 芸術劇場びわ湖ホール 中ホール

磁石(じしゃく)

遠江の田舎者が都見物を目指し、ようやく近江の大津あたりについたところで見知らぬ男に声をかけられます。男は田舎者を言葉巧みに騙して宿を紹介しますが実はそこは人買いの宿。そのことに気づいた田舎者は逃げ出し気づいた男はその後を追います。田舎者はこの場をどう乗り切るのでしょうか…



梟(ふくろう)

山から帰ってきて以来具合の悪い弟を治して欲しいと兄は法印に頼みます。法印が一心に祈ると弟は急に奇声を発します。法印は梟がとり憑いたのだと察して梟の嫌う烏の印を結び一心不乱に祈りますが…

